

序

昭和60年度に予算化された「小児慢性腎疾患の予防管理治療に関する研究費」は、厚生省児童家庭局母子衛生課の御尽力により昭和61年度も引き続き予算が計上され、ここに第2年度の研究報告書を刊行することになった。

本研究班は、小児期に発症する腎疾患を早期に発見し、慢性腎不全への移行を予防することを目的としている。更には、腎疾患の発症を予防し得る方策を見い出せば、これにまさるものはない。これらの研究は、多岐にわたるものであり、幅広い専門分野の研究者の参集が必要である。各分野の専門学者の参加を得た本研究班が、それぞれの分野で相当な成果をあげられたことは誠に御同慶にたえない。特に、学問的にも困難と考えられていた腎疾患と生体防御機構に関する研究が進展し、将来この方面からの腎疾患の予防、予後、予知等が期待される。他の研究部門においても、それぞれ本報告書にみと通りの成果をあげられていることに対し、敬意と謝意を表す。

62年度は、当初計画された研究の最終年にあたるので、従来の研究成果をふまえ更に研究が進展し、その成果が国民に還元されることを期待し、班員ならびに協力者の方々の一層の努力をお願いする次第である。

人工透析の導入を必要とする患者は、年々5～6千人新たに発生しており、透析患者は現在7万に達している。一方透析患者中腎移植希望者は25%を超えているが、腎提供者が少なく透析治療を続けざるを得ず、社会復帰もままならない現情である。厚生省は昭和61年度に「腎不全対策推進会議」を発足させ、包括的対策を検討している。本研究班の研究成果が資料として活用され、腎不全対策が樹立されることを願うものである。

最後に、昭和61年度報告書作成にあたり御世話いただいた北川照男、酒井糾、橋爪藤光の各班長、事務局の方々の御苦勞に感謝するとともに、厚生省当局の物心両面にわたる御支援に深謝する。

総合班長 石丸隆治